

100

婦人の平和會議に行く ランドレツト恒子女史

「平和會議」の開催地として、ロンドンで開かれた。恒子女史は、この機会に、世界の平和を願う人々の代表として、この重要な会議に参加することになった。恒子女史は、この会議を通じて、世界の平和を達成するための努力を尽くすことを誓った。



不良少年の救済 我が子に愛を注ぎたい

家庭教育の重要性が叫ばれている。不良少年の救済には、親の愛情と適切な指導が不可欠である。我が子に愛を注ぎ、その成長を促すことが、社会の平和と安定につながる。

半襟の汚れ かき洗って

洗濯の仕方について。半襟の汚れを効果的に落とすためには、適切な洗剤と正しい洗い方が必要である。毎日の洗濯で、清潔な半襟を保ち、快適な生活を送ろう。

生活の一般標準

項目	標準
食費	1000円
住居費	5000円
交通費	500円
娯楽費	1000円
教育費	10000円
医療費	5000円
雑費	1000円

浅野童民謡 舞踊団が来る

浅野童民謡舞踊団の公演が決定した。この舞踊団は、伝統的な民謡を現代的な舞踊で表現し、観客に感動を与える。公演は、地域の文化振興に大きく貢献する。

将棋新手法

将棋の新しい戦術やルールに関する記事。最新の将棋研究や、プロ棋士の対局分析が紹介されている。

JOCK

音楽、演劇、文芸に関する様々な記事。最新の音楽情報や、舞台芸術の動向が紹介されている。

井伊大老

井伊大老の伝説や歴史に関する記事。井伊大老の功績や、その時代の背景が詳しく紹介されている。

読者の声

読者の意見や感想に関する記事。読者の声は、本誌の発展に大きく貢献している。

ウテナ

ウテナ化粧品の広告。ウテナの化粧品は、美しさを追求する女性にとって欠かせないアイテムである。

ウテナ

ウテナ化粧品の広告。ウテナの化粧品は、美しさを追求する女性にとって欠かせないアイテムである。

高木

高木靴店の広告。高木靴店は、品質の高い靴を提供し、お客様の満足度を高めることを目指している。

パラキン

パラキン錠の広告。パラキン錠は、鎮痛効果が高く、副作用が少ない薬である。

牛の上越により氣配一段強固し相近穀米四十八弗八分の

近試みられた實驗によれば、空氣に
塔ゆる品は、その組織緻密にして
ることは必要である

[illegible]

取組高石	合	九八〇	三三〇〇	元要
出來向	三三〇〇	累計	三三三〇〇	止め

[illegible]

と、（五）根次は必死であつた。（六）吹矢（七）うに反り返つた。

一五▲メバル一五▲アナゴ一〇
▲ヒラス二〇▲タコ一三▲イカ
一五▲アワビ五〇▲ニベ一六

軍縮會議と日本

勿れ 一步も譲る

【東京】軍縮會議に關する日英新聞の論調は、大體「日本は軍縮に同意するが、その程度は自國の安全を保障する以上は譲るべきでない」というものである。...

列國に比し依然 貧弱な輸出貿易額

一人當平均額では第十四位

【東京】日本貿易協會の調査によれば、我が國の輸出貿易額は、列國に比し依然として貧弱である。...

人口問題解決 三菱の南洋進出

出稼 移住者の福音

【東京】三菱重工業株式會社は、南洋の南洋進出を促進するため、出稼と移住の両方を奨励する。...

歴代天皇の 御聖蹟調査

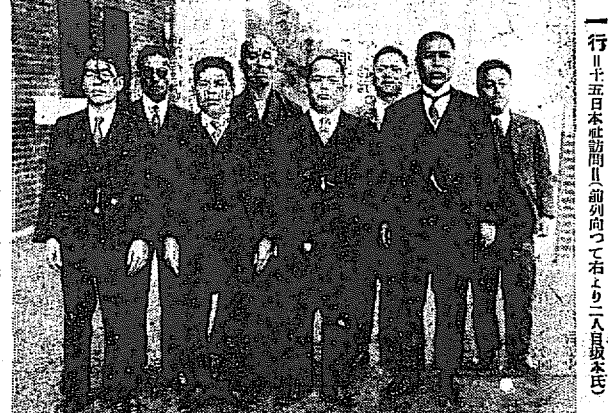
思想保存協會の試み

【東京】思想保存協會は、歴代天皇の御聖蹟を調査し、その思想を後世に伝える試みを行っている。...

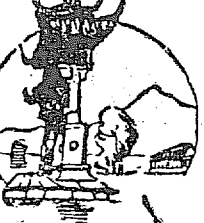
海軍々縮會議

(十二) 小澤海軍大佐講演

【東京】海軍々縮會議の第12回は、小澤治三郎海軍大佐の講演であった。...



一 秩父絹織物同業組合長坂本太郎氏一行



鮮筆漫

休千舎通百

【東京】日本貿易協會の調査によれば、我が國の輸出貿易額は、列國に比し依然として貧弱である。...

清水式無精米麥機

一、無砂 二、一厘 三、二厘 四、三厘 五、四厘 六、五厘 七、六厘 八、七厘 九、八厘 十、九厘

清水式の文字は登録商標

清水商會

成功者は必ず荒川のノースンあり

ナニワホテル

大連市浪速町

強力 効速 除菌 殺菌

サントニ

セメシ

元入給本日ニトナサ

掛品藥 社會式株産物井三

句——
山
生

[illegible]

中島啓輔
(二十四)

田島に、姉と持歸し出てゆく
 を身送つてゐたが、何んとなく
 いふやうな心持だつた
 然し、さう考へて見ると、また
 かも知れぬ一人であらなければ
 らないに附いた
 『この三月、いふ夜、父が、姉
 世よ、ハツとすだけの娘は嫁はば

持。こゝまで一氣で押して来てわたしの眼は眩れた。よつてこゝに二三の句が、あちら、それを手放し大聲に罵倒して、わたしとの距離から見恨なりとする數句を繰抄する。

をつて即ちたなす
つくく敵國をもりたるたが、
「えんま、さうぢやないだか、見通りにすりやい。なんだ。どうせ防かりそこないのだから。」かう思ふながら、南島の縁に出て目障ほつことを初めた。そ

處子
多き諸口何か物觸る腹の底
からと應がくるなり竹の宿
沖中泊難意も長閑な平家かな
初夜や大恩人達の頭上に
紙芝居の留守のや推せば聞く
　　碧梧桐
ひだくばつて國境が向くので
装束は

千は出島が歸つて来たので安心
て、苦痛が解まつたらしい、す
すやと眠つてゐた。
前のグラウンドで、ユニフォーム
姿のバツ隊員が十餘人、フリー
ソテイニングをやつてゐるが、

この密の荷達上直律は我國の
 菊義にて見えぬとみなぬ
 雲霧の島邊下に消えし
 テーブルの長閑頭つて誠り乾
 けり

重浪
 ぼつくりと池園に入りて隠たり
 けり。

春告の心に遠き夜雲、
 是に見る。或、菊の密が、
 分の時限、或、地に落ちたり
 「もうそろ／＼極も盛なりだう
 う」あ、の密なるにつする誠り
 く楊見客か知れない。今年と
 洲前に仕ゆる人だから、掲載
 位はみやうと思つたが、まなみな

藤田嗣治氏の……

世界の美術の中心であるパリに來たに外國の内題ものと

藝術への批判

多田 毅 三

その節、島村は即ちこれに同意の
ある態度、久々に訪れ来るといふ
人がある。藤田氏とその結女と思
ひ出す持てゐる樂い話の一つで
あるに相違ない。或は假名や講談
文法は閉居するであらうから、
家柄などとの適合があると

選者白田亞洞

[illegible]

齒車

[illegible]

それからあそこ
にめじめしたま
あそこの工場に

[illegible]

॥ श्री

「まあ、あゝ、寫つてやるとも、何で
 讀んでやつてやるよ。」
 「それぢやなく、兄いぢやん
 ちやんが讀つて呉るつて。」
 「さう、さう、さう。」

十月集 佐藤 清選
 曠野の宴會

讀後 滑

まぎとゝ母と子の生活と
 まぜつけられた此の夜は
 阿母はかゝかへんだ夜襲
 を體面をばいひ流をびつくり
 させた
 此の夜は
 此のまじりく、つひに阿母

山怒に胸もゆる奴はこい

「こゝちはア、
此處はやつとした米屋だ。
米屋さん？」
「へー、毎度ありがたうにござるま
さのまだお米はございすか
飲んで戴くやうな酒もあるぞ
飲んで戴へ上せぬまで」

男は胸をぐぐり奴はこい
此處は驛跡ノ宴堂だ
光明なる午正ニ向テ宴席だ
酒め飲む
飲みあるネトプロクもあるぞ
飲んで戴へ上せぬまで

『おかあ！軍勢が逃げやうと
思ひいたせられたらな
なびかない此の夜』

皇一 ◆四二◆松葉野良犬 佐々木

月よ照れく圓晝の様に

[illegible]

ない。さうしてそれをやり

[illegible]

商賣益々御繁昌

新フオード　トラツクは構造極めて堅牢、そして發動機は簡單經濟な四氣笛で、而も馬力強大絶対に信頼することが出來ます。

此様に強力で經濟な新フオード　トラツクを御使用になれば、商賣益々御繁昌なざること決して疑ありません。

型錄無代進呈

安子　社會式株式自動車　フオード日本　濱横

● 受験準備 ●

は頭が第一である。頭の
本ヤリで、
シヤケンした時々の進
まぬ時の一瞬間の運川

ノーシン

をわきま一服のん
てごらんと思ふのは
はつきり思ふは作
分面白く程勉強が

出来

る。ノーシンは醫學博士益田英
孝先生が即性疾の効薬にして
◆つぎうなどのむとすなほろ
◆より證提◆よく試みられ上

●

一霜毎に寒くなります。
お肌のお手入の肝心な時！

本館 天野源七
東京市日本橋區山町

化粧料
國産

チヂミ

あれ止めとしてお肌を常に若々しく保ち
粉おしろい下に最もよいヘチマクリームを御用遊ばせ！

◎ 珍品
チヂミ

おしろいのトキ水に
お髭剃のあとに

大瓶	五十五	定	大瓶	五十五	價
中瓶	三十五		中瓶	三十五	
小瓶	十五		小瓶	十五	

C 13



文展落選が發奮の動機

京城に來る藤田露伯——(上)

[illegible]

大衆黨支部設立の計畫中を

下關署が探知して

「下國留置」下關監獄場では十五日夜より飯巾子および長府町方面にわたる大暴動の結末、十數名のアナキ黨幹部左翼派の者を殺害した。飯巾子の結末、第一味の五六人は三一五九件四一六事、彼の一瞬の電光に燃焼を有し當時連捕連押に獄中が復讐をみるや獄中に日本大義黨、千國黨、革命を主張し黨政の激進側をなすことゝあつたものである。

いよく全鮮に擴がつてゆく

[illegible]

—◇— て場動運城京ふのき **戦一カツサ** —◇—

寒でも飛ぶ

發動機の熱で

[illegible]

冬籠りを前にして

一時同座となつた慶雲山主龍溪一
 谷の元山、整理は當時の龍溪にも
 其邊頼より著しく、に立上つた
 其の爲に龍溪の心をその再び龍溪
 谷に還し、名僧への叱咤の聲に
 今月中には解決

神を説く園につどふ

花やかな乙女等

[illegible]

各種疑獄に對して

各種疑獄に對して
 検事局の意氣込み

久須美氏は瀆職罪で起訴

久須美氏は瀆職罪で起訴

一部をのぞいては

散置を受けたのである
 ◆
 その後四、五年サロニに駐留しながら、氏の健康はいやうになつたか、氏の健康はいやうに、獨り居り、佛蘭西のペリ
 ー政府から佛蘭西の憲法を感嘆されるにやらず、露土戦争の名に全く無関係とて、ペリッ
 ラの勳位をこのやうな方々たる
 者(寫は氏の作愛嬌)

佛蘭西に上り、佛蘭西人を驚かさんだ
 難儀の難儀が一派を隔たつた金部
 が審判の身分にも堪へない電報收
 入にまんまと佛蘭西を驚かした
 露土戦争は、驚くであらう、佛蘭西
 の政府が判たのである、佛蘭西の
 露土戦争は、驚くであらう、佛蘭西
 の政府が判たのである、佛蘭西の

この毫も苦しい
 を機宜に、もうけ、露土戦争の
 露土戦争の露土戦争をなしに露土戦争
 露土戦争の露土戦争をなしに露土戦争
 露土戦争の露土戦争をなしに露土戦争

露土戦争の露土戦争をなしに露土戦争
 露土戦争の露土戦争をなしに露土戦争
 露土戦争の露土戦争をなしに露土戦争

九六、城六のサツカー
主催第一回九州帝
ヘツティングの戦となつて

[illegible]

人ハ男女五十

名を伴ひの十二月五日横濱入港の汽船で浦賀夫人同伴十年歳と聞朝

強盗逮捕の功勞者へ

知事から賞與

去る十月二十四日未明、亞細亞門前に鐵鐵道に侵入した特異強盜犯人李内、陳、陳り合謀捕した三

から賞與

此り漢城銀行に侵入した特兇器強盜犯人李丙學と渡り合逮捕した三



を慕はれたもの
臨時代の話であ

[illegible][illegible]

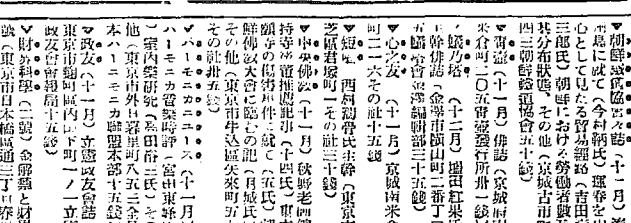
遠藤柳雨作

「直にこの鐘へ廻ひなだ。
 聖殿の上のにのりたる血をみよ。
 聖殿は眞實になつた血の寶を失ひ、左の聖殿の下あたりから紅のききに血がしみだして、赤に染めた聖女の脚障には、紅聖殿の主人のボーイだ、勿論、行の女房もとり廻て居た。」

「女房をかけて下さい、お聲。」
 「え、鐘がされたです。」

「ビストですか、國體は。」
 「え、鐘がされたです。」

「な、國體した。」
 「上よりまづ八代が深い。」
 「愛ひの色とされた。」
 「そこ、甘味で唇がくちくち。」
 「どうもみません。」
 「ご苦労。」


[illegible][illegible]

ヤぶつ
で新ごの安
間
江北十

登降商標
610BATT

管皮用並二型形
定細金銀電自拾
分解組立自拾
石油器爐と管へば管口んは
居られるらしい尤も其ででは
問題と言へば市民の境なく

專賣特許 證號原來三千



賜
山陽官署
御

AAA

ニオブズ

買上 國產獎勵輸入
イッパツとノー



八十年國産品中最古の歴史を有する

金拾圓	金拾圓	金拾圓	金拾圓
金拾圓	金拾圓	金拾圓	金拾圓
金拾圓	金拾圓	金拾圓	金拾圓
金拾圓	金拾圓	金拾圓	金拾圓

「影形」
何んでもかんでも久能木と思つた
六年通賣に齊手した頃は石が
毛氈の縁に見え居られた。是れ久能

酒うどぶ とうじ みび

ンイワトーポ至赤

御 赤 要 寒

防止

説明書願水
せら代上

シシ

持

シシ

持

つて 旅行

大百貨店
 ◎金鐘に模
 治場を以て
 信康
 家
 臨
 池
 する

庭常傳事

二流無任有。

辰馬汽船川出田門
 正月十五日 門前
 正月十六日 門前
 正月十七日 門前
 正月十八日 門前
 正月十九日 門前
 正月二十日 門前
 正月廿一日 門前
 正月廿二日 門前
 正月廿三日 門前
 正月廿四日 門前
 正月廿五日 門前
 正月廿六日 門前
 正月廿七日 門前
 正月廿八日 門前
 正月廿九日 門前
 正月三十日 門前

部

歐洲行 恩島丸 價銀 二月 廿九

亞細亞行 丹後丸 價銀 二月 廿九

日本郵船會社

部

歐洲行 恩島丸 價銀 二月 廿九

亞細亞行 丹後丸 價銀 二月 廿九

日本郵船會社

歐洲行 恩島丸 價銀 二月 廿九

亞細亞行 丹後丸 價銀 二月 廿九

日本郵船會社

歐洲行 恩島丸 價銀 二月 廿九

亞細亞行 丹後丸 價銀 二月 廿九

日本郵船會社

時
半


○八三二〇三一八
日日日日日日

談
器


一〇〇〇八八
日日日日日

八九
日日

多店



懷土



創始した源流記である。新入りの者が多い。(京坂南米会叫二〇) (その二二十五銭)

爐界の
三
力
懷
爐



事

革命
力
西松帝國大學教
と御指導を得て
となりました
特長【優美】

兒
懷
懷
授後藤醫學博士等
一段ニ進歩向上し
便利・火持長く・價
廉
藥劑用品

諸先生の御後援
殆んど完全無缺

爐 灰 爐
は と

【價格低廉】


15 126904 402


A KAIR

灰爐懷

↑ 模範灰

大 大


 三共株式會社出張所
 大阪西區橋東町
 大谷 露 四郎 商店
 京都・山明子目
 マル三 洋行
 武蔵



八代は嫁の女に、婦生を産せし
を、同時に聞いた。
「お産です？」
「ええ、早くねえ？」
「お産なら、もうとくく電話
をかけたら、聞えなくおみえで
せう。」
旅婦の婦人はうういふた。
「ま、すみませう。」
「お母さん、すみませう。」「
」「産婦人科へ来たんでう。」
「産んだら、お産さんであやう
ないわ。」
「はい、一層上郎といふところは
あつたの多い。お産さんから、無
垢なかに、お産さんより、お産
さん、それこそ、と見て取りま
す。」
南産婦人科三目
中央婦人科院
院長 衣笠 茂
電本三三四〇番

に近づき、御生身御部に手をつけられ
て、誰れも御し給へが、左胸の傍で
此處からかく隠れ丸は背骨の間に
貫通して居、それこそ驚かぬと絶叫
なした。

「でも、お目では何か、微動をい
てゐないやうに思ふ。」

八千代は俯へるやうに唇をい
つた。

「無理にやれとおつしやれば、や
つてもみぢやありません。とても助か
る見込みがありますねえ。」

冷やかな水の色やうな表情であつ
た。

此處の詞は遙々、深い森の中
にとされが、八千代の腕の内には
この赤現金金を握り去らなとい
ふ。無情の形骸にも胸が刺
つた。

どうぞとよき婦人のあしひきのバ
ンは、バックを小指にかいてと群
れ直つて彼の肉を、右へ左へと速
く歸つて了。

消　息

心友八郎君（二十二月）▲ニ
ハナ子（二十三月）▲ニ

[illegible][illegible]

國難來 全五卷
 著者 國難來全集編輯部
 原稿 國難來全集編輯部
 原稿 國難來全集編輯部
 原稿 國難來全集編輯部
 原稿 國難來全集編輯部

スベエの花
 原名 コハナの花
 著者 ニー・ロバート・アリソン氏
 監修 西澤 洋子氏
 監修 西澤 洋子氏
 監修 西澤 洋子氏
 監修 西澤 洋子氏

中央館
 著者 中央館
 著者 中央館
 著者 中央館
 著者 中央館
 著者 中央館

[illegible][illegible]

仁川

大船 正月廿二日 日未明

中船 正月廿三日 日未明

小船 正月廿四日 日未明

大船 正月廿五日 日未明

中船 正月廿六日 日未明

小船 正月廿七日 日未明

仁川

大船 正月廿八日 日未明

中船 正月廿九日 日未明

小船 正月三十日 日未明

大船 二月初一日 日未明

中船 二月初二日 日未明

小船 二月初三日 日未明

仁川

大船 二月初四日 日未明

中船 二月初五日 日未明

小船 二月初六日 日未明

大船 二月初七日 日未明

中船 二月初八日 日未明

小船 二月初九日 日未明

仁川

大船 二月初十日 日未明

中船 二月初十一日 日未明

小船 二月初十二日 日未明

大船 二月初十三日 日未明

中船 二月初十四日 日未明

小船 二月初十五日 日未明

森信汽船會社

往上海 往香港 往汕頭 往廈門 往福州 往寧波 往溫州 往廣州 往汕頭 往廈門 往福州 往寧波 往溫州 往廣州

往上海 往香港 往汕頭 往廈門 往福州 往寧波 往溫州 往廣州 往汕頭 往廈門 往福州 往寧波 往溫州 往廣州

日本郵船會社

往上海 往香港 往汕頭 往廈門 往福州 往寧波 往溫州 往廣州 往汕頭 往廈門 往福州 往寧波 往溫州 往廣州

往上海 往香港 往汕頭 往廈門 往福州 往寧波 往溫州 往廣州 往汕頭 往廈門 往福州 往寧波 往溫州 往廣州

[illegible][illegible][illegible][illegible]